

プール学院報

愛と奉仕



第89号

2019年7月
発行

学校法人 プール学院

〒544-0033

大阪市生野区勝山北1-19-31

TEL.06-6741-7005

FAX.06-6731-2431



短期大学入学式：2019年4月2日



短期大学入学式

CONTENTS

学院長挨拶	1
【特集:就退任挨拶】	2・3
【短期大学】	
秘書科の取り組み	4
幼児教育保育学科の取り組み	5
【中学校・高等学校】	
校長挨拶	6
進学実績	7
教諭メッセージ	8
生徒メッセージ	9
卒業生紹介	9
キリスト教のメッセージ&コラム	10
同窓会だより	11
法人だより	12
編集後記	12

ご挨拶

「求道の旅」をご一緒に。

学院長 アンデレ磯 晴久（日本聖公会大阪教区主教）

今年4月1日付けで、プール学院学院長に就任致しました磯です。私自身、聖公会ではありませんが、中学・高校・大学とキリスト教主義学校で過ごし、貴重な経験・体験や先生や友人たちとのふれあい、そして豊かな学びを通して、随分と育てて頂いたと感謝している者です。小さな器ですが、何かしかプール学院に貢献できれば、キリスト教主義学校で育てて頂いたことへの恩返しになるかと考えています。

さて、今私の目の前に、聖書協会共同訳という新しい日本語訳の聖書があります。聖書はおよそ1千年もの時代にわたってヘブライ語（旧約聖書）やギリシャ語（新約聖書）で書かれたものです。今日私が自由に日本語で聖書を読むことができるのは、多くの人々が昔からずっと学問研究をし、翻訳作業をおこたらずに続けてきたからです。私は、長く研究や翻訳作業が続けられた根元には、「真理」を、あるいは「この人生の意味」を、もっとはっきりと掴みたいという求道心があったからだと考えています。「求道の旅」なんて、ボタン一つで何でもできてしまうような世界では、のろのろとしていて、ばか

ばかしいと感じる方もあるかもしれません。ちょっと手を伸ばせば手に取ることができる聖書が、どんな長い歴史を通して今日の前にあるのか、皆さまも一度探究してみませんか。

人間の世界は、あちらこちらで対立・混乱・暴力・殺人で満ちていて、これからどういう方向へ進んでいくのか、大変不透明です。けれども、世界は全くの暗黒ではないし、何かしら真理というものをはっきりと見たいという願いは、私たちの中から消え去ってはいないと思います。

旧約聖書続編知恵の書6章16節に、「知恵は自分にふさわしい人々を求めて巡り歩き、道でその人たちにやさしく姿を現わし、あらゆる思いの中で彼らと出会う」とあります。

知恵も真理の方からも、ふさわしい人を探し求めています。私たちもプール学院という場で「求道の旅」を始めましょう。





2019年4月1日 就任礼拝

就任のご挨拶

理事長 吉田 幸一

杉山修一前理事長・学院長から理事長職を引き継ぎました吉田幸一です。よろしくお願いいたします。

杉山前理事長の諮問機関である「プール学院中学校・高等学校検討会議」が2018年1月よりスタートしました。この会議に、有識者の一人として参加いたしておりました。主には、中高の経営面と教学面の両面を検討しましたが、短期大学を含めた学校法人プール学院の学院経営と教育力向上に関しても建設的な議論が交わされました。

前述の会議をとおして、歴史と伝統あるプール学院短期大学と中学校・高等学校の未来ビジョンの策定にかかわらせていただいたことなどが、この度の異動に結び付いたのではないかと思います。

21世紀は知識基盤社会(knowledge-based society)といわれている中で、AI、IoT、ロボットやビッグデータなどによる第4次産業革命が急速に進んでいます。社会の変化と共に求められる人材像も自ずと変わってきています。

愛と知恵の源である神様の御心によって建てられたプール学院も、変えられないものを受け入れる心の平穏と、変えることができるものを変える勇気により、時代の要請に応えた教育を実践し、社会に学生、生徒を送り出す使命を担っています。創立150周年に向け、Poole Gakuin Action 150(PGA150)を策定し、一層の教育の拡充とすべてのステークホルダーの負託に応える学院経営を担ってまいります。

Poole Gakuin Action 150(略称PGA150) ～創立150周年に向けて～

1. キリスト教精神に基づいた愛と奉仕の担い手であるサーバント・リーダー(Servant Leader)の育成
2. 安定的かつ持続可能な学校経営の実現
3. 世界と地域に貢献するグローバルな教育の実践
4. 学生・生徒の教育満足度を高め、社会に貢献する人材の育成
5. 良き教育者を育成するための教育環境の充実

社会変化の激しい中、大学、短期大学の高等教育と中学校・高等学校の中等学校においてもその変化を受け入れ、安定的かつ持続可能な学校経営を実現することが、本学院の社会から求められる使命ではないでしょうか。

「このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。そればかりでなく、苦難をも誇りとします。私たちは知っているのです、苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを」
(ローマの信徒への手紙5章3～4)

略歴

早稲田大学大学院法学研究科修了。ソニー勤務(人事・法務・役員室)後、教育界へ。公立高校長・私立中高校長を経てプール学院へ。経済産業省、環境省の専門委員。茶道終身師範。読売教育賞受賞。



創立140周年記念の集い

2019年6月1日午後、清心館におきまして、プール学院役員・評議員、教職員等で、創立140周年記念の礼拝を守りました。当日は、学院長の磯晴久日本聖公会大阪教区主教のお話と、プール学院中学・高等学校吹奏楽部と弦楽部による、記念演奏「威風堂々」が行われました。

なお、中学校・高等学校は、同日の午前にメアリーズホールにおきまして、創立140周年記念礼拝を守り、短期大学は、6月5日にエレノアチャペルにおきまして創立140周年記念感謝アセンブリーを行いました。



退任のご挨拶

「恵みに満ちた時」

前理事長・学院長 杉山 修一

現在は日本聖公会 東京教区
聖パウロ教会 司祭



学院長・校長・理事長として15年にわたる恵みに満ちた年を歴史と伝統あるプール学院で働かせていただきました。2002年のことであつたと思います。岩坂元理事長が東京に来られ、私にプール学院の学院長を引き受けてもらいたいとおっしゃいました。光栄なことではありましたが、聖公会に属する立教女学院という学校の校長職4期目を拝命したばかりであつたため失礼を顧みずお断りをさせていただきました。しかし、岩坂理事長は翌年には東京教区主教、および立教女学院理事長に働きかけ、私の移籍について承諾を取り付けて私を新しい職場に招いて下さいました。2004年4月、プール学院にお世話になることになりました。

岩坂理事長からは新校舎建築の責任を担うこと、また中高の新しいコース制を推進すること、短期大学に新学科を作るために協力することなどが課題として与えられました。非力にもかかわらず周囲の方々のお支えと助けをいただいて、なんとかそれぞれの課題に取り組むことができました。東京とは大きく異なる文化を持つ大阪の地で頭をぶつけながらの毎日でした。しかし、キリスト教それも同じ聖公会という教会の伝統の中で女子教育を中心とした歴史を刻んできたプール学院には今までの学校と共通する使命があることを見出し、この学校で働くことに大きな喜びを感じました。

建築では耐震の問題があることからヴォーリーズの設計になる旧清心館を取り壊す時に生徒たちが上げた悲鳴のような声を忘れることができません。しかし、新しい校舎ができた時、今度はそれを見て喜んだ高校3年生が、「留年してもう1年この学校にいたい」と言った時の柔軟な生き方、考え方に「変えることの勇氣」を教えてくださいました。クリスマスツリー点灯式、成人祝福式、幼児教育学科の設置、後援会の発足、オクスラド基金の創設、賀寿祝福礼拝開始など新しいことも多く経験させていただきました。とりわけトリストラム同窓会の強力な活動、支援には心から敬服しています。

一方、教職員の不断の努力にもかかわらず、時代の大きな変化の中で託された使命を十分果たせず結果としてプール学院における高等教育機関については学校法人桃山学院に設置者変更すること、短期大学については募集停止を決定するなど法人の運営規模を縮小する決断をするという理事長としての力不足を痛感する日々でもありました。しかし今年、創立140年を迎えるプール学院が将来にわたってキリスト教教育を实践する学校として発展していくことを確信していますし、神さまがプール学院とそこに学ぶ生徒、学生、そして教職員の一人ひとりを守り導いて下さることを心から祈っています。

「生徒一人ひとりの賜物を磨くには」

前校長 内海 伸晃

現在は中学校・高等学校 参与



6年間の任期を終え、無事校長を退任する事ができたのは神様の見守りとプール学院に関わる皆さんのお支えとご理解、ご協力のおかげである。関係者の皆様に心より感謝申しあげる。

私がプール学院に着任したのは1980年、音楽科の非常勤講師として採用された。この40年間プール学院の変化を目の当たりにしてきた。まだ、短期大学が勝山にあつた時代である。その後、短期大学は泉ヶ丘に移転し、プール学院大学も誕生した。その大学は桃山学院大学に設置者変更され、短大も募集停止が決まっている。そんな状況の中、おかげさまで中高はこの勝山で苦しいながらも努力を続け、未来に向かって躍動し続けている。

中学校においては、入口(入試制度・コース制等)、中身(教育内容・カリキュラム等)、出口(大学進学実績等)それぞれに新たな取り組みを行い、教職員一丸となって教育活動や募集活動に力を注いでいる。

高等学校の募集に関しては公立中学校との長年の信頼関係と新たな企画が順調に理解されて、比較的安定した生徒数を獲得できている。そこには2つの要因が考えられる。まず芸術コース(音楽・美術)の新設が効果的であつた。入試の段階で芸術実技入試を行い、入学してからは芸術コースでレベルの高い授業が行われている。その結果、進学も京都市立芸術大学をはじめ有名な芸術系の大学にも現役で入学している。もう一つはグローバルコースの充実である。イギリス1ヶ月、ニュージーランド3ヶ月、カナダ1年の留学制度があり、毎年数名の希望者が充実した留学を経験し、人間的にも大きく成長している。進路もその経験を生かした受験制度で有名大学に進学している。芸術と国際の2点に関しては良い循環を保っている。公立中学校からも高い評価をいただいている。

これからのプール学院の歩むべき道はこの2点にヒントがあると考える。生徒がプール学院に何を求めているのか?を考える事が大切である。基礎学力の充実と進路の保証は欠かせない。あと一つが問題である。一人ひとりの生徒が持っている賜物を磨くことだといえる。多様な生き方の中で、様々な価値観を見いだせるようなカリキュラムを創ることが必要になってくる。それには一人ひとりの教職員が輝いていなければならない。教職員のパッションが学校を変え、発展させることができるのだと思う。

秘書科の活動報告 (2019年1月から4月まで)

秘書科ではアクティブラーニングを積極的に取り入れています。海外研修に参加した2年次生の声をご覧ください。この4月、秘書科36期生となる入学生を迎えました。例年、4月第3週目の土曜日に1年次生を対象にオリエンテーションデイを実施しています。秘書科教員によるオリエンテーションデイの印象記をご紹介します。

海外研修(香港)に参加して

秘書科2年次生 中尾 紗弥

私は2019年1月4日～6日に香港研修に参加しました。研修期間が非常に短いですが、学内での事前学習・事後の学習を受け、ホスピタリティーツーリズムの大切さを学びました。初日は香港の航空会社キャセイパシフィック



ビクトリアハーバーを背景にして

航空の本社であるキャセイシティでの研修でした。シティ内では無線機を使っての説明で、すべて英語です。イヤホンから聞こえる英語を理解するのに必死でした。グランドスタッフの模擬演習や飛行機内を模したモックアップではファーストクラスの席まで座らせてもらうなど、貴重な体験ができました。



キャセイシティでの研修

ホテルの研修先は、ザ・リッツ・カールトン香港、インターコンチネンタル香港でした。ホテルでは、フロア中に良い香りがしており、香港の景色が一望でき、お客様がリラックスできるための工夫が多くなされていました。

香港でのことを思い出すと、今でも楽しかったという気持ちが蘇ります。

海外研修(フィリピン)に参加して

秘書科2年次生 浅香 杏奈

私はフィリピンで約2週間(2019年2月9日～23日)のサービスマーケティングを行いました。そのサービスマーケティングでは、子どもたちの教育のサポートや高齢者とのコミュ



Trinity University of Asiaの皆さんと一緒に

ニケーションなど、4つのグループに分かれ、それぞれの活動に取り組みました。私のグループの活動は、歌やゲーム、学習などで子どもたちと交流し、現地の子どもたちや生活環境の理解を深めるものでした。子どもたちの生活環境の厳しさを実感しました。しかしそのような環境であっても笑顔を決やさない彼ら・彼女らを見て、私はかえって元気をもらいました。



サービスマーケティングの様子

この活動を通して、私は多くの刺激を受けました。2週間という短い期間でしたが、充実した日々を送ることができました。

2019 ORIENTATION DAY CHAPEL TALK

秘書科教授 Rebecca Arthur

Orientation Day chapel began with a story of a tadpole that thought it would always be a tadpole. When its life began to change, the tadpole panicked. However, it slowly adjusted and, by the end, it was a frog that was proud of its accomplishments. We too will all face unexpected challenges at some point in our lives. We too may panic and struggle. However, when facing



Many thanks to the 3 second-year students who helped with chapel.

difficulties, the Bible says we are not alone. We are not to lose courage or be afraid. (Deuteronomy 31:8) Nor are we to let our hearts be troubled. (John 14:27) God is with us.

オリエンテーションデイ「クラス対抗ドッジボール大会」

秘書科准教授 和田 慎二郎

秘書科では、オリエンテーションデイの午後の部に、恒例のクラス対抗ドッジボール大会を行っています。今年、P1、P2、Q、Rの4クラスで総当りのリーグ戦を行いました。やる気満々の学生が多く、試合前から部活並みの本格的な練習を行い、本番でも1試合の8分間を元気に楽しく戦っていました。早く終わった試合もありましたが、驚いたことに、その後すぐに自発的に2クラス混合で独自の2チームを編成し、対戦表にはない試合を始めていました。そこには、クラスの一体感だけでなく、学年全体としての一体感がありました。二度と来ないこの時間をみんなで全力で



やる気満々の学生たち

楽しむ、という雰囲気があり、本当に感動しました。この素晴らしい学生たちの、今後の活躍に期待しています。

幼児教育保育学科の取り組みについて

保育アドバンス講座「オリエンテーションデイ」開催

今年度、幼児教育保育学科には24名の新生を迎えました。本学科では、保育士資格・幼稚園教諭免許の取得に向けて、多くの授業を開講しています。その中に、保育実習の事前指導の一環として、保育アドバンス講座があります。今年度は、5月25日に2年生のスタッフ9名とともに、保育アドバンス講座「オリエンテーションデイ」を開催しました。その際の活動内容を報告します。

午前の部では、造形表現の担当教員が中心となり、フロッタージュ（こすり出し）で魚を作り、林で拾った枝を竿にし、池で釣りをする創作活動をしました。この活動の中で、思うように魚の形にちぎれない、思うように釣れない体験を楽しみました。自然のものと関わり、様々な刺激を受けることによって、次の創造と表現することへの意欲へと繋がっていくことを学びました。

幼児造形の楽しさを体験し、1年生も2年生も進んで取り組む姿が見られ、表情もほころんでいくのが印象的でした。



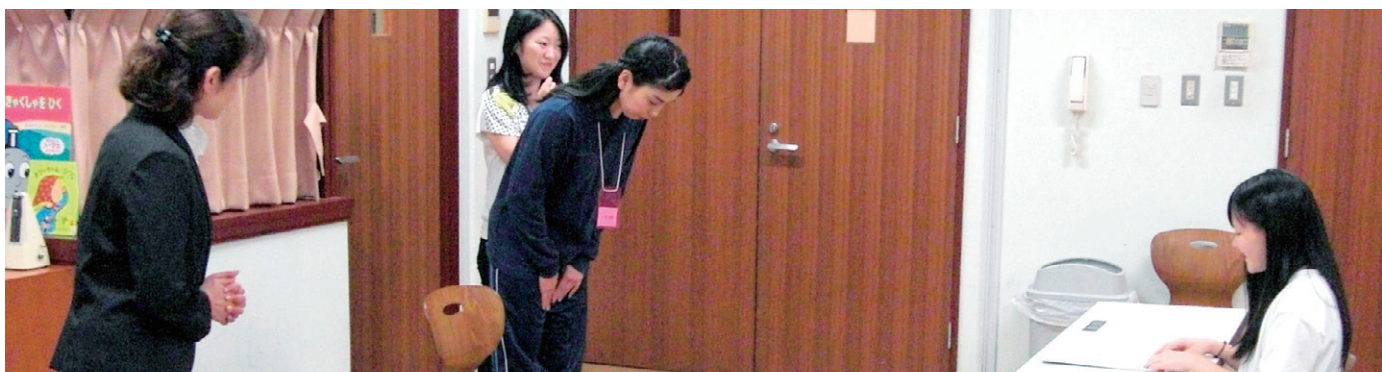
フロッタージュで作った魚たち



ネットの模様をこすり出している様子



磁石をつけた竿で釣っている様子



園長先生(右)との面接場面を想定したロールプレイの様子

午後の部では、秘書科の教員によるマナー講座が行われました。保育の現場では、子どもたちはもちろんのこと、保護者や同僚の保育者と円滑なコミュニケーションをとることは不可欠です。子どもたちの言葉にならない訴えや気持ちを保育者がいかに受け止めるかが、子どもの発達を左右します。講座の中で、1年生の学生たちは、実習先に行く際に想定される園長先生との面接場面をロールプレイで疑似体験しました。コミュニケーションをとるためのマナーとして、身だしなみや言葉使いはもちろんのこと、「聴く」姿勢によって、相手への思いやりが伝わるということを学ぶことができました。

さらに、2年生スタッフによる設定保育も行われました。2年生が保育者役、1年生が子ども役となり、魚のうろこの服を絵具筆で作るグループ、紙コップでびよんびよんカエルを作るグループに分かれ



びよんびよんカエル



魚の服をスポンジ筆で作っている様子

で行われました。2年生が行った設定保育を体験できたことで、観察実習や実践実習のイメージが膨らんだようです。また、2年生との懇談では実習日志を見せてもらい、実習についてのアドバイスを受けました。1日を過ごして、遊びを通した幼児造形の

意味、保育者としての心構えや具体的なマナーの方法や技法など、保育実習に向けての技術を学ぶ有意義な時間となりました。

プール学院短期大学 後援会活動について

「後援会」は在学生の保護者によって組織されており、学生会や就職活動対策への援助、入学・卒業記念品購入、卒業感謝会の開催等、本学の教育活動に多くのご支援をいただいています。4月2日入学式後に、「2019年度後援会総会」が開催され、2018年度事業・決算報告、2019年度事業計画・予算が承認されました。

時代の要請に応える プール学院の学び

～明日に輝く生徒たち～

校長 吉田 幸一



“キリストの平和が わたしたちのこころの すみずみにまで
ゆきわたりますように” 聖歌142番は毎朝歌われています。

新元号の令和が発表となった本年4月より、内海伸晃先生
から校長職を引き継ぎました。早速、4月より中高の教職員と面
談を実施しました。(短期大学も4月中旬に教職員面談を終え
ています)

早速、中高の教育力向上プロジェクトを教職員から公募するこ
とにしました。14人の教職員の方が手を挙げてくれ、2019年
度の理事長方針と校長方針の理解と実現に向けた検討と、
①授業力向上 ②学院の特色づくり ③校務運営、働き方改
革の分科会により、教職員の具体的な提案や要望を上げても
らう組織体を編成することにしました。7月の中間報告を経て、
2020年度の以降の中高の施策に関して具申してもらいます。

また、文部科学省の指定事業「地域との協働による高等
学校教育改革推進事業(グローバル型)」の指定を受け、教
科横断的な探求をおこなうことで、世界に向けてはグローバル
教育を、生野区を中心とした大阪市の地域探求はローカル教
育を目指します。

さらに、大学入試改革や初等中等教育の学習指導要領の
改訂が迫る中、少子化に端を発した児童・生徒の減少は喫
緊の課題であり、私立学校にとっての経営の大きなハードルと
なっています。“夢を見るから、人生は輝く”という5月の生徒目標
にあるように、時代の要請に応える学院のビジョンが問われる
チャンスが到来したと考えたいと思います。ピンチをチャンスに
変えるエネルギーは私たち教職員の意思と覚悟から醸成され
ます。事実、4月から学校ホームページを工夫して、生徒・保護者
目線に切り替えたところ、多くの保護者の皆様から早速感謝の
言葉をいただきました。

愛と知恵の源である神様の御心によって創立されたプール
学院を、ご関係のすべての皆様と共に歩み、良き実りの時を
迎えることができる学院経営をしてまいります。

曲がり角をまがった先に、何があるのかは、わからない。でも、
きっといちばんよいものに違いないと思う。

「同窓生子女対象入試説明会」開催のお知らせ

イベント	同窓生子女対象入試説明会
開催日時	8月24日(土) 13:00~
場 所	本校
対 象	同窓生(プール学院中学・高校・短大・大学)の子女、孫、在校生姉妹、その保護者
内 容	学校概要や入試説明、入学金等に関する優遇・特典など
参加申込	[お電話] 06-6741-7005 またはQRコードから



申し込みフォーム

2018年度高Ⅲ生の進路状況

進路指導部長 澤村 厚司

2019年度センター試験の志願者数は、前年度より5,841人少ない、576,830人であった。

受験者数は減少傾向でなおかつ、3科目以上の受験者も減少し、2科目以下は微増している。これは私立のセンター利用型入試を利用する生徒が増えていることを示している。国公立大学の志願者は8年連続減少し、公立大学の志望者は4年連続増加している。入試改革の前年で安全志向が強く出ている。学部人気も文高理低が少し落ち着き、理工学部の人気が出てきている。

本校では、卒業生196名のうち、4年制大学へ151名(77.0%)、短期大学へ17名(8.7%)各種専門学校へ14名(7.1%)が進学した。昨年と比べて割合はほとんど変わらない。今年度は公募推薦から受験日程を組む生徒が多く、年内に1つ以上の合格を持っている生徒が多かった。資格志向は続いていて医療系や生活・食物栄養系、教育系への進学者が多い。中期以降の倍率が高く、難しい入試となったが、最後まで志望を貫いて、あきらめずに粘った生徒が合格を勝ち取った。今年度も、安易に妥協せず、最後まで粘り強く学習する生徒が増えることを望む。

2019年度入試 合格実績 卒業生数：196名

人数は現役・既卒生の合計を示す

大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数	大学名	人数
国公立大学計	20	桃山学院大学	7	京都精華大学	1	金沢医科大学	1
神戸大学	1	桃山学院教育大学	5	京都造形芸術大学	1	藤田医科大学	1
大阪市立大学	1	同志社女子大学	17	嵯峨美術大学	1	国際医療福祉大学	1
大阪府立大学	1	神戸女学院大学	10	京都美術工芸大学	1	短期大学計	27
奈良女子大学	2	京都女子大学	11	甲南女子大学	7	プール学院短期大学	4
滋賀大学	1	武庫川女子大学	13	大阪樟蔭女子大学	5	武庫川女子大学短期大学部	15
和歌山大学	1	関西外国語大学	19	神戸松蔭女子学院大学	3	関西外国語大学短期大学部	3
京都市立芸術大学	1	帝塚山学院大学	8	京都ノートルダム女子大学	3	平安女学院大学短期大学部	1
和歌山県立医科大学	1	佛教大学	8	梅花女子大学	1	白鳳短期大学	1
兵庫県立大学	1	大和大学	6	4年制私立大学(近畿圏外)計	30	大阪キリスト教短期大学	1
都留文科大学	1	帝塚山大学	5	早稲田大学	1	常磐会短期大学	1
徳島大学	1	大阪大谷大学	5	青山学院大学	1	大手前短期大学	1
高知大学	1	四天王寺大学	4	立教大学	6	専門・各種学校計	15
石川県立大学	1	千里金蘭大学	3	法政大学	1	大阪労災看護専門学校	1
福井県立大学	1	森ノ宮医療大学	2	学習院大学	1	大阪南医療センター附属大阪南看護学校	1
岡山県立大学	1	京都外国語大学	2	国際基督教大学	1	大阪病院附属看護専門学校	1
県立広島大学	1	大阪医科大学	2	聖路加国際大学	2	大阪済生会中津看護専門学校	1
三重短期大学	2	大阪音楽大学	2	成蹊大学	1	大阪医療技術学園専門学校	1
国立看護大学校	1	大阪経済大学	2	明治学院大学	1	PL学園衛生看護専門学校	1
4年制私立大学(近畿圏)計	261	羽衣国際大学	2	獨協大学	1	堺歯科衛生士専門学校	1
関西大学	9	姫路獨協大学	2	武蔵野大学	1	行岡医学技術専門学校	1
関西学院大学	20	大阪薬科大学	1	東京家政学院大学	1	大阪外語専門学校	1
同志社大学	4	大阪産業大学	1	東洋英和女学院大学	1	大阪美術専門学校	1
立命館大学	7	大阪工業大学	1	学習院女子大学	1	大原簿記法律専門学校	1
京都産業大学	6	大阪電気通信大学	1	日本女子大学	1	大阪工業技術専門学校	1
近畿大学	24	大阪経済法科大学	1	大妻女子大学	1	関西ビューティプロ専門学校	1
甲南大学	5	宝塚大学	1	国立音楽大学	2	大阪モード学園	1
龍谷大学	3	大谷大学	1	多摩美術大学	1	NIC International College in japan	1
摂南大学	11	奈良学園大学	1	徳島文理大学	1	海外計	0
追手門学院大学	5	兵庫医療大学	1	北里大学	1		

教会礼拝を通じて 「平和」を想う

宗教部人権教育係 教諭 松倉 紀之

5月28日(火)は、全校の「教会礼拝」の日でした。

私は、中学二年生の担当として、雨の降る中、学校から生徒たちと徒歩で、寺田町にある日本聖公会大阪聖愛教会へ向かいました。

古澤秀利司祭のもと、剣持さんの奏楽で礼拝が始まりました。剣持さんは1954(昭和29)年ご卒業であるそうですが、私たちの聖歌の合唱を先導していただきました。「オルガンの音色がとてもきれいで、すごく上手で、みんなが声を合わせて、何曲も聖歌を歌っているとき、礼拝堂の中全体に響き渡っていたので、とても礼拝をしているという実感がわき、みんなが一つになっているようで、心が休まるようだった。」何人かの生徒の声です。大先輩だということにも驚きを感じたようです。「先輩達もここへ来て礼拝をしたんだと思うと歴史を感じました。」

教会礼拝が日常の学校での礼拝と異なるひとつは、まさに教会の醸し出す雰囲気とそこで行われる儀式的な雰囲気を感じ取ることなのでしょう。特に中学生の感性形成には大きな意味があるのかもしれません。

聖愛教会はそんなに大きな教会ではないのですが、生徒たちは、礼拝堂に入ると同時に落ち着いた雰囲気に呑み込まれて、自然に静かに座って式が始まるのを待つのでした。「厳かな雰囲気、自然に静かになり、心の落ち着く場所でした。」とは多くの生徒の声です。ある生徒は言います。「教会には白っぽいイメージがあったのですが、赤茶色の木材を使っていて、茶色と赤が、とってもあったかくて落ち着いた雰囲気でした。」と。きっと、座り心地のよいぎぶとんのひかれた木の椅子に静かに座りながらも、目を建物のあちこちに向かわせて、感じ取っていたのでしょう。なんて十字架が大きいのでしょう。天井で静かにクルクル回っているものは何?きれいで美しいステンドグラスを見ていると「心がゆったりとできる」とも表現しています。いい言葉です。

生徒の目は、前方の聖壇の上の美しいステンドグラスに注がれていきます。『霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制』。生徒たちは、精霊を通じ神とイエスに結びついていっているのでしょうか。

自然に静かな気持ちになり、心があったかく、ゆったりと落ち着く、そしてひとつに感じる、教会が醸し出し、生徒のいうこの心持ちこそ「平和」の基礎なのではないでしょうか。

生徒たちは、「平和を実現する人々は、幸いである。」「主よ、わたしを平和の道具にしてください。」と唱えます。

古澤司祭は、ろうそくに火をつけ、平和を語り、沖縄戦の悲劇を語り、生徒に問いかけます。

わが子までも手につけて、ガマの中で集団自死する話、娘が母に「他人ではなくお母さんに殺してほしい」と言った話、集団

自死を止めるハワイから沖縄に戻った人の話、戦争中の苦難の中でごはんも食べられなくて多くの人が亡くなった話、たくさんの命が失われた戦争の怖さと悲しみに生徒たちは引き込まれていきます。と同時に、お話を通じて、生徒たちは驚きつつ、「戦争がない=平和ではない」ということに気づかされていきます。

「戦争をしていなくても、身の周りではいろいろな悲しいこと、苦しいことがいっぱいあるということが心に残りました。」「自分が普通に幸せに暮らしているということがどんなに幸せなことか、改めて考えさせられ、感謝するということが心に残りました。」「生きていることが幸いであるということ」「自分が毎日食事をできることも、一つの幸せだと思い、家族に感謝の気持ちがわきました。」「当たり前のことをこれから大切にしていこうと思った。」など。

中学三年生が習う公民の教科書にはこう書いてあります。『平和とはなんでしょうか。一般に、平和は<戦争のない状態>といわれます。これを消極的平和といいます。しかし、戦争で殺されるのも、飢餓で死んでいくのも、生命をうばわれるという点では同じであるため、世界の中の貧困や経済格差で苦しむ人々も<平和でない状態>にあると考えられるようになりました。このような貧困や経済格差などの状態が改善・解消された状態を、積極的平和と呼んでいます。』と。

貧困、紛争、テロ、気候変動、資源の枯渇など、人類は数多くの前代未聞の地球的課題に直面しています。この危機に対して、現在、国連を中心とした世界のさまざまなアクターは、「誰一人取り残さない(Leave no one behind=LNOR)」をキーワードに、2030年までに、『貧困をなくそう』『人や国の不平等をなくそう』『ジェンダー平等を実現しよう』『平和と公正をすべての人に』といった17の目標を立てて、その達成をめざしています。《持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals=SDGs)》です。

これを学校教育につなげようとするのが、ESD=Education for Sustainable Development でしょう。

教会礼拝を通じて想う平和への願い、それを現代の人類の平和構築へとつなげていければと思ったところです。そこにキリストの平和と現代の平和の接点があるように思えるのですが、みなさんはどのように思われるでしょうか。



生徒メッセージ

体育祭ダンスリーダー を経験して

高校Ⅲ年A組 雨森 あかね

プール学院の体育祭では、高校3年生はラストにダンスを踊ります。このダンスは毎年新しいものを見せます。昨年の高校3年生は、体育館のライトを全て消し、光る棒を持って音に合わせて踊っていました。今年も例年通り異例なもの、組体操とダンスをしました。



まず組体操は、高校生は小中学生と違い力があるので、あまり怖いということはなく、ひたすらに楽しい練習でした。もちろん、たくさん汗をかいて、水を飲んでも飲んでも足りなくて、暑くて暑くて、疲れて、し

んどくなる時もありましたが、学年全員で組体操を成功させたいという思いがある中で練習は青春をしているようで、輝いているものでした。



最前列左が雨森さん

ダンスは2曲踊りました。1曲目は難しい踊りで、なかなか振りや全員が覚えることはできず、練習が難航しました。休み時間に練習したり、動画を見たりしながら覚えめました。その練習している時間もみんなであいながらして、青春していました。もう1曲の踊りも難しく、練習は大変でした。

私は1クラスに数人いるダンスリーダーというものをしており、先に振りを完璧に覚えなければならなかったもので、家で何度も練習しました。ダンスリーダーになったことで高校生最後の行事、体育祭に深く関わられて嬉しかったです。

学年全体でしたダンスや組体操は、練習をしている時も、終わってからも「楽しい」だけでは言葉不足なほど楽しく、青春を謳歌しました。高校3年生で、振り返るとキラキラと輝いている思い出ができ、本当に良かったです。

シリーズ
第29回

活躍する
卒業生

株式会社 森田写真館

重見 美知子さん (現 森田) (第77回卒業生)



写真の世界に魅せられた人生

昭和36年に入学し中学生の頃からフォス先生、バイカー先生に英語を習いました。楽しい思い出です。卒業後写真学校を経て(株)森田写真館に入社し、以来52年になります。現在も中・高・短大の卒業アルバム等の撮影・制作をさせていただいております。

勝山の校舎が新しくなる前は校庭の大きな桜の木の前でクラス写真を撮っていました。卒業アルバム用の個人写真を撮影する時は「心の内面から滲み出る美しさにお化粧はいらないよ」と、いつの時代の生徒さんにもお話をしました。学院の色々な事が様変わりしましたが、令和元年の体育祭の高Ⅲのダンスは感動しました。笑顔が



写真右は坂本スミ子さん
プール学院135周年同窓会フェスティバル
2014.12.17 大阪フェスティバルホールにて

全員可愛く、力強くもあり、学院の新しい時代の幕開けを感じました。制服も今の制服に愛着を感じますし、校歌もすぐに歌えます。

私事ですが本年古希を迎え内勤になった機会に、創立156年(梶谷説と西島説では異なる)となる当社がいつの頃から学院で仕事をさせていただいていたのかを調べてみました。当社の興祖森田禮造は文久3(1863)年に島根藩主の命により長崎の上野彦馬(日本初のプロカメラマン・現九州産業大学・坂本竜馬等撮影)の弟子となり写真術を習得しました。島根県松江市殿町に戻った後、藩主の松平家からレンズを払い下げてもらい、山陰地方で初めての写真師として森田写真館を創業しました。2代目の安次郎は松江の禮造に弟子入りしましたが、元々は大阪市西区の出身で学院の川口時代を存じ上げていたようです。松江歴史館の調査が進めば詳しく分かると思います。

5代目となる私自身もプール学院の生徒・卒業生・カメラマンとして学院から多くのご指導をいただき、今日があります。今回このような機会を得ました事を心から感謝いたします。

中学校・高等学校

「神さまのなさる業」

宗教科講師 上田 結子

プール学院で学んでいた頃の私に、「いつか宗教科の非常勤講師になって教壇に立つ」と言ったら、一体どんな顔をするだろうか。きっとどんなに丁寧に説明したとしても、信じてはくれないだろう。

思い返すと、高校時代の私は、毎日聖書を制カバンに入れて持ち歩いていた。ほとんど全員が学校に置きっぱなしの聖書を、私はなぜか毎日せっせと持ち運んで、暇な時には開いて読んでいた。けれどもそれは純粋な興味からではなく、「なんでこんなものを信じられるのだろう」という、^秘掘くれた興味からの行動だったと思う。プール学院に入学して初めてキリスト教に出会った私は、キリスト教の言う神とは、イエスとは、信じるとは、一体何か。なぜ世界の多くの人がそれを信じ、こんなにたくさん宗教美術や音楽が残されているのか、そんなことをずっと考えていたのだ。

そして、進路を決める時期になり、今は亡き担任の先生に「文学部に行って源氏物語が読みたい」と打ち明けたところ、「あなたに文学部は向いていないと思う」という予想外の答えが返ってきた。私は当時文芸部に所属しており、顧問であり古典の担当であり二年間担任でもあったその先生は、当時の私のことを私より理解していたのだろう。そこで紹介されたのが、神学部だったのである。

神学部に進み、宗教というものを客観的に学んだ結果、私の疑問は少しずつ解かれ、十数年経った今、紆余曲折あって、こうして聖書とともに生きるようになった。

神さまというのはほんとうに、不思議なことをなさる方だ、と今なら笑って言える。

「神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人にあたえられる。それでもなお、神のなさる業を始めから終わりまで見極めることは許されていない」というコヘレトの言葉の一節が、年を重ねるごとに実感として迫ってくるようになった。

次は一体、どんな神さまのふしぎな業が起こるのだろう。そんなことを思いながら、今日も子どもたち
に神さまの愛がひとかけらでも伝えられますようにと祈り、聖書を片手に、教室の扉を開くのである。



短期大学

「キリスト教の夏の祭り」

チャプレン ヒューム ユーワン

キリスト教において、二つの主要な祭り、或いは祝日はクリスマス（降誕日）とイースター（復活日）です。クリスマスはイエス様のご誕生を祝う日で、毎年、12月25日の冬の最中に祝います。また、毎年日付は変わりますが、春の最中にはイースターを祝い、イースターはイエス様が死から蘇る、つまりご復活の祝日です。けれども、冬と春以外の、他の季節には、キリスト教の祝日は何があるのでしょうか？



日本では、クリスマスは広く知られていますが、それに反して、ごく最近まで日本ではイースターはほとんど知られていませんでした。ですので、日本においては、キリスト教は冬と春の祭りしかないと思われるかもしれません。実際、キリスト教には夏にも祭りがあります。その祭りはペンテコステ（聖霊降臨日）と呼ばれ、キリスト教においては三つの大祝日の内の一つの大祝日です。ペンテコステはイースター後の50日目に当たるので、毎年日付が変わり、今年は6月9日に祝われました。ペンテコステとはどのような祝日なのでしょう？ペンテコステはイエス様が天にのぼられた後、聖霊が彼の弟子たちの上に降ったことを祝う祝日です（使徒言行録2:1-4）。昇天したイエス様の代わりに聖霊は私たちの世に来て働いて、弟子たちに教えたり、イエス様が話したすべてのことを彼らに思い起こさせたりしたということです（ヨハネによる福音書14:26）。従って、聖霊の降りによって、神様のミッションはイエス様から弟子たちにバトンタッチされました。初めてのペンテコステでは弟子たちが聖霊に満たされた時に面白いことが起こりました。彼らはほかの国々の言葉で話すようになりました。そのことの重要性は弟子たちが外国に行って宣教活動をすることを示すというわけです。従って、ペンテコステは教会の始まりと考えることができます。ですので、キリスト教は最初から国際的な宗教で、どなたでも、人種や国籍は無関係であり、だれでもキリスト教徒になることができます。そのことは素晴らしいことだと思います。



結果として、キリスト教はパレスティナ、現在のイスラエルのユダヤ教から生まれた宗教ですが、世界中に広がり、どの国に行っても、教会を見つけることができます。



現在(ここ)から未来(あす)へ

一般社団法人POOLE理事長 鈴木 光子 (高73回・小柴)

プール学院創立140周年を心からお祝い申し上げます。同窓会も発足して100年を超え、法人格を取得して90年が過ぎました。長きにわたり、学院関係者・同窓生お一人お一人のお力添えにより今に至っております。有職者の多い現在、同窓会活動も困難を要し、工夫が必要ですが、ただただみなさまの「愛と奉仕」の精神により運営が出来ており感謝の念にたえません。大阪本部を

中心に国内は関東支部・中部支部・九州支部が、海外には北米支部・米国東部支部が置かれており、それぞれの場所で大きな働きをし、絆を深めております。これからも皆さまの御名によってたてられたプール学院の発展のために同窓会は祈りをもって応援していきたいと思っております。



一般社団法人POOLE 「2019年度 定時社員総会」開催報告

広報委員 鍋島 真由美 (高87回・加納)

新元号「令和」の幕が明け心新たに迎えた5月。少し曇り空の18日(土)午前11時よりプール学院ラウンジに於いて「一般社団法人POOLE2019年度定時社員総会」が開催されました。出席44名、委任状出席36名(社員総数136名)により定数を満たし総会成立となり、議長に鈴木光子理事長が選出され、第1号議案から第5号議案は全て全員挙手により承認可決されました。(定款第4章第18条による)第6号議案により退任理事を拍手でその労に感謝し、新任理事を紹介、承認されました。



総会の様子



新役員紹介

議案	第1号議案	2018年度 活動報告
	第2号議案	2018年度 会計決算報告
	第3号議案	2018年度 会計監査報告
	第4号議案	2019年度 活動計画案
	第5号議案	2019年度 会計予算案
	第6号議案	2019年度 役員改選

新役員紹介	理事長	鈴木 光子(小柴)	高73回
	常任理事	大塚 陽子(今江)	高76回
	常任理事	浦垣 敏子(江畑)*	高77回
	理事	福井 良子(田中)	高77回
		黒川 か代子(西庄加代子)	高78回
		都木 和子(古川)*	高78回・E20期
		市成 美砂子(樋渡)	高86回
	(学年代表委員長)	桑平 麻由子(桑村)	高86回
		南本 由香里(岡本)	高86回
		岡田 由美(野本)	高87回
		樋井 佳津子(西村)	高87回
		鍋島 真由美(加納)	高87回
		古東 真智子(長友)	高92回
		奥野 幸子(小橋)*	高92回
	監事	内田 佐知子(手塚)	高74回
		豊田 賀世子(岡本)	高77回
	(ミヅパ会会長)	五十嵐 泰子(佐藤)	高84回・E26期

* … 新任 E … 旧短期大学英文科

一般社団法人POOLE 「2019年度 同窓生の集い」開催報告

2019年5月18日(土)午後1時よりプール学院・清心館に於いて、「一般社団法人POOLE2019年度 同窓生の集い」が開催され、約120名の同窓生が集いました。

- 第1部** 成岡宏晃チャプレンの司式で開会礼拝ののち、竹林徑一司祭(元プール学院チャプレン)より、嘘無く素直でありなさい、と心から素直に聞くという気持ちの大切さなど身近なお話の中から私たちに心響くメッセージをいただき、同窓会の祈りをささげました。
- 第2部** 同日午前には開催された社員総会の報告を一般社団法人POOLE鈴木光子理事長より、続いてプール学院中高教頭 藤本雪絵先生のご挨拶がありました。又、各委員会委員長よりそれぞれ近況報告がありました。
- 第3部** 同窓会コーラスPOOLEの皆さんによる盤石な歌声を今年も披露していただき、続いてスペシャルゲストの口笛奏者 儀間太久美氏による、国際口笛大会にて優勝された見事な口笛によるソロライブが行われました。澄み切った口笛が清心館に響き渡りクラシックからCM曲まで幅広い曲目で皆を楽しませてくれました。最後に当日出張に行かれていたプール学院理事長・中高校長 吉田幸一先生が戻って来られご挨拶をいただく事ができました。

「同窓生の集い」終了後、同窓会館2階において恒例の「手作りバザー」「喫茶ルーム(有料)」が開催され終了時間まで楽しく親睦を深めました。(鍋島 記)



ゲスト 儀間 太久美氏



同窓会コーラスPOOLE



バザー会場

2018年度決算について

1. 2018年度の決算に影響した主な内容

- ・短期大学部門において、平成30年度大阪府保育対策総合支援事業費補助金477千円の交付が決定された。
- ・勝山キャンパスのトイレ洋式化工事が完了し、貸借対照表の建物に56,430千円が計上されている。
なお、寄付金収入のうち1,746千円をトイレ洋式化工事に充当させていただいた。
- ・勝山キャンパスの建物診断を行い、優先順位の高い修繕を2018年度から順次着手している。
- ・台風21号により建物に被った被害の修繕や倒木の撤去を行った。

(2) 事業活動収支計算書

(単位 千円)

2018(平成30)年度 事業活動収支計算書 (2018.4.1~2019.3.31)			
事業活動収入の部		事業活動支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	724,107	人件費(含退職金)	1,009,013
手数料	9,617	教育研究経費	398,036
寄付金	663,455	管理経費	170,693
経常費等補助金	434,709	徴収不能額等	0
付随事業収入	3,594		
雑収入	154,872	教育活動支出計	1,577,744
教育活動収入計	1,990,356	教育活動収支差額	412,612
		借入金等利息	3,966
受取利息・配当金	198	その他の教育活動外支出	0
その他の教育活動外収入	0	教育活動外支出計	3,966
教育活動外収入計	198	教育活動外収支差額	△ 3,768
		経常収支差額	408,844
資産売却差額	0	資産処分差額	2,410
その他の特別収入	1	その他の特別支出	0
特別収入計	1	特別支出計	2,410
		特別収支差額	△ 2,408
事業活動収入計	1,990,556	事業活動支出計	1,584,120
		基本金組入前当年度収支差額	406,435
		基本金組入額合計	△ 63,698
		当年度収支差額	342,737
		前年度繰越収支差額	△ 1,438,505
		基本金取崩額	0
		翌年度繰越収支差額	△ 1,095,768

2. 当期決算の概要 (千円未満を切捨てているため、合計は一致しない場合がある。)

(1) 資金収支計算書

(単位 千円)

2018(平成30)年度 資金収支計算書 (2018.4.1~2019.3.31)			
収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	724,107	人件費支出	1,017,705
手数料収入	9,617	教育研究経費支出	250,424
寄付金収入	663,455	管理経費支出	152,621
補助金収入	434,709	借入金等利息支出	3,966
資産売却収入	0	借入金等返済支出	33,330
付随事業・収益事業収入	3,594	施設関係支出	56,430
受取利息・配当金収入	198	設備関係支出	25,175
雑収入	154,872	資産運用支出	410,440
借入金等収入	0	その他の支出	254,980
前受金収入	110,080		
その他の収入	328,918	資金支出調整勘定	△ 177,958
資金収入調整勘定	△ 260,123	翌年度繰越収支差額	334,598
前年度繰越収支差額	192,284		
収入の部合計	2,361,714	支出の部合計	2,361,714

(3) 貸借対照表

(単位 千円)

2018(平成30)年度 貸借対照表 (2018年3月31日)			
資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	5,084,423	4,941,626	142,796
有形固定資産	3,535,454	3,621,940	△ 86,485
特定資産	1,548,263	1,318,781	229,482
その他の固定資産	705	905	△ 200
流動資産	748,997	635,384	113,612
資産の部合計	5,833,421	5,577,011	256,409
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	897,520	924,082	△ 26,562
流動負債	385,410	508,874	△ 123,463
負債の部合計	1,282,931	1,432,957	△ 150,026
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	5,646,258	5,582,560	63,698
第1号基本金	5,474,533	5,410,834	63,698
第4号基本金	171,725	171,725	0
繰越収支差額	△ 1,095,768	△ 1,438,505	342,737
翌年度繰越収支差額	△ 1,095,768	△ 1,438,505	342,737
純資産の部合計	4,550,490	4,144,054	406,435
負債及び純資産の部合計	5,833,421	5,577,011	256,409

学院人事

■学校法人役員・評議員

〈就任〉-2019.4.1付-
 理事長 吉田 幸一
 理事・評議員 佐藤 公一
 監事 東 弘彦

〈重任〉-2019.4.1付-
 監事 米虫 克次
 評議員 原 徹

〈退任〉-2019.3.31付-
 理事長 杉山 修一
 理事・評議員 杉山 修一
 内海 伸晃
 松岡 興二
 倉戸 直実
 増成 恒哉
 監事 佐藤 公一
 評議員 井上 美津
 岩城 聰

■役職者

〈就任〉-2019.4.1付-
 学 院 長 磯 晴久
 中学校・高等 学校 校長 吉田 幸一

〈退任〉-2019.3.31付-
 学 院 長 杉山 修一
 中学校・高等 学校 校長 内海 伸晃※
 ※内海 伸晃は職員(参与)として継続

■教職員

〈新任・就任〉-2019.4.1付-
 * 短期大学
 教授(特別任用) 寅屋 壽廣
 准教授(特別任用) 織田 恵輔
 講師(特別任用) 大土 恵子
 南 亜紀子

-2019.4.2付-
 准教授(特別任用) 原田 昌幸

-2019.4.30付-
 教授(特別任用) 渡邊 のゆり

-2019.4.1付- * 中学校・高等学校
 教諭(任期制専任) 岡本 真司 勢頭 美里
 内芝 恵梧

〈退職〉-2019.3.31付- * 短期大学
 教員(特別任用含む) 植野 雄司 李 晚熙
 中村 真由美 為村 啓二※
 藪 一裕 大内田 真理※
 田島 真知子 高間 準
 ※為村 啓二、大内田 真理は非常勤講師として継続

職員(常勤管理職嘱託) 和田 隆

-2019.3.31付- * 中学校・高等学校
 教員(任期制含む) 脚野 亜弥 池幡 由衣子
 榎本 弥優

職 員 片岡 厚子

■訃報

●大田 美智子
 2018.10.21 逝去
 1977.4.1~1982.3.31
 中学校・高等学校教員

先生のご在職中のお働き
 を覚え、つつしんで魂の平
 安をお祈り申し上げます。

ご寄贈感謝(卒業寄付)

○高校2018年度卒業生
 1,000,000円

プール学院短期大学について(2)

短期大学の歴史資料等につきましては、2021年4月以降、勝山キャンパスに「短期大学記念室(仮称)」を設置して保存・公開する方向で検討しております。

編集後記

「セカオワ」と呼ばれている、2010年頃にデビューした「SEKAI NO OWARI」という、若者の4人組のグループがあります。その曲目に「アースチャイルド」があり、その一説に以下の歌詞がありますので、ご紹介します。
 『Earth Child 世界中の暴言非道 もしも自分に向けられても 変わらない為に僕はいつまでも 変わり続けるよ』。建学の精神が守られ、平和な歩みができますようにお祈りします。『桜』